

製品名: 53BP1 (リン酸化Ser25) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04187**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	TP53BP1
別名	TP53BP1; Tumor suppressor p53-binding protein 1; 53BP1; p53-binding protein 1; p53BP1
遺伝子 ID	7158.0
SwissProt ID	Q12888
免疫原	抗血清は、ヒト 53BP1 の Ser25 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

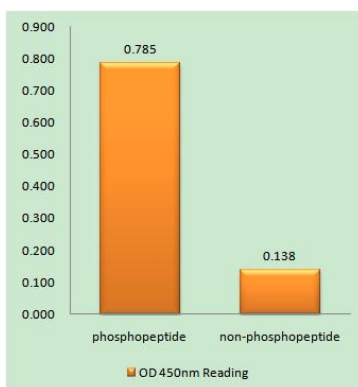
背景

機能: 有糸分裂中のチェックポイントシグナル伝達に関与している可能性がある（類似性による）。TP53 を介した転写活性化を促進す

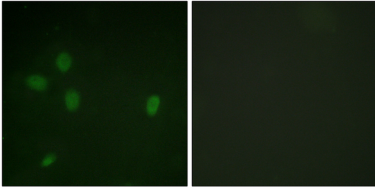
る。DNA 損傷への応答において役割を果たす。PTM:PRMT1 によって Arg 残基が非対称にジメチル化される。メチル化は DNA 結合に必要である。PTM:DNA 損傷がない場合、基底レベルでリン酸化される。電離放射線によって誘発される DNA 損傷に応答して、ATM 依存的に過剰リン酸化される。紫外線照射によって誘発される DNA 損傷に応答して、ATR 依存的に過剰リン酸化される。類似性:2つの BRCT ドメインを含む。細胞内局在:動原体に関連。一部の細胞では核内と細胞質内の両方に存在。二重鎖切断などの DNA 損傷部位にリクルートされる。ヒストン H4 の「Lys-20」のメチル化は、二本鎖切断部位への効率的な局在に必要である。サブユニット:IFI202A と相互作用する(類似性による)。TP53/p53 の中央ドメインに結合します。ホモオリゴマーを形成する場合があります。DCLRE1C と相互作用します。ヒストン H2AFX と相互作用し、これには H2AFX の「Ser-139」のリン酸化が必要です。「Lys-20」がジメチル化されたヒストン H4 と相互作用します。モノメチル化された「Lys-20」を含むヒストン H4 との親和性は低いです。メチル化されていない、またはトリメチル化された「Lys-20」を含むヒストン H4 には結合しません。「Lys-79」がジメチル化されたヒストン H3 との親和性は低いです。「Lys-79」がモノメチル化されたヒストン H3 との親和性は非常に低いです(in vitro)。メチル化されていないヒストン H3 には結合しません。機能:有糸分裂中のチェックポイントシグナル伝達に役割を果たす可能性があります(類似性による)。TP53 を介した転写活性化を促進します。DNA 損傷への応答において役割を果たします。PTM:PRMT1 によって Arg 残基が非対称にジメチル化されます。メチル化は DNA 結合に必要です。PTM:DNA 損傷がない場合、基底レベルでリン酸化されます。電離放射線によって誘発される DNA 損傷に応答して、ATM 依存的に過剰リン酸化されます。紫外線照射によって誘発される DNA 損傷に応答して、ATR 依存的に過剰リン酸化されます。類似性:2つの BRCT ドメインが含まれます。細胞内位置:動原体に関連しています。一部の細胞では核と細胞質の両方に存在します。二重鎖切断などの DNA 損傷部位にリクルートされます。ヒストン H4 の「Lys-20」のメチル化は、二本鎖切断部位への効率的な局在に必要である。サブユニット:IFI202A と相互作用する(類似性による)。TP53/p53 の中央ドメインに結合します。ホモオリゴマーを形成する場合があります。DCLRE1C と相互作用します。ヒストン H2AFX と相互作用し、これには H2AFX の「Ser-139」のリン酸化が必要です。「Lys-20」がジメチル化されたヒストン H4 と相互作用します。モノメチル化された「Lys-20」を含むヒストン H4 との親和性は低いです。メチル化されていない、またはトリメチル化された「Lys-20」を含むヒストン H4 には結合しません。「Lys-79」がジメチル化されたヒストン H3 との親和性は低いです。「Lys-79」がモノメチル化されたヒストン H3 との親和性は非常に低いです(in vitro)。メチル化されていないヒストン H3 には結合しない。

研究分野

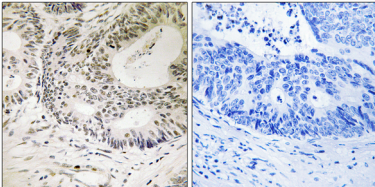
画像データ



53BP1 (リン酸化 Ser25) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



53BP1 (リン酸化 Ser25) 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



53BP1 (リン酸化 Ser25) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。